



女類  
教訓

賢女心經

作者其碩

13  
660  
/





門 遠 13  
辨 660  
卷 1



賢女心化粧序

女メの心ココロ化粧ケイゾウの序ジ  
乃ナラバは以もつて顔容カウヨウを琢たく磨らひつけらるるべしと  
思おもひてををはのあらははととみみ琢たくとと磨らひつけらるるべしと  
錦ニシキの袋フクロ乃ナラバ中ナカに荊棘トゲトゲをを入いれるべしとと思おもひつけらるるべしと  
ややんん人ひとににおおかかららせせららるる幸あき性しやう人ひとととせせ口くち  
惜おぼるるべしとと思おもひつけらるるべしと  
なならら賢けんとと思おもひつけらるるべしと  
相あらら色いろとと思おもひつけらるるべしと  
相あらら色いろとと思おもひつけらるるべしと

明治三六年  
九月一日  
購



ひらりけを直し孫磨とて貞女の力を第一と  
嗜むよ女中張こもまの美人といひあたらひ楊  
貴妃より價取むの苦もあたらひあつて見  
と七今五冊の女の苦と著して朝夕向ふ女  
見ればより人け振をて我振をて一巻と  
同くゆも化粧とて直し題号とて童女  
力を教ゆるの一助るらん

延享二年丑の神書

作者 其積

賢女化粧

一之巻

目録

第一 心の旅と巻深分の娘お育

市尾常の荆棘の根いしは悪女坊  
美君の心と化粧の地がつり梳  
まはれいまをてらに女中の費用



第二 心、罪のさし深き、姑の心燈

昔のよき定規ふちやし教のおうら  
運の道用お持出と和向をひらり物  
象笥の中れ七のれ姑の年ハ二十ハ老

第三 心乃角心振立ふ邪見か姑

たこあふ名をけしふ乃月まご  
氏がまらんと人ぐね女のめあがり老  
後をしく梅のをくんたんの利生

心ハ腹と蕪深合の姑の言

昔より姑の子ハ母の言うとらり男子くらび成人てハ他人乃  
あふゆき。年ハ三親より入。男の言とらりもハわくといまれね  
やハ心とてとらるをぬらりけり。ばすられまの男作のわハあね  
やハ心とらるが才一され。年ハゆらぬ。心ハ男子よりハ母の教訓  
をうらとてハ他人の心ハけり。も男の行作わられ。姑乃  
ハの言ハあ。まハ心とられて。心ハとらる。物とらじ。あ。ハ  
姑の心ハ。命とらけて。心とら。ハの心とあ。と。あ。ハの心と  
から。ハの心と。あ。ハの心と。あ。ハの心と。あ。ハの心と。  
う。ハの心と。あ。ハの心と。あ。ハの心と。あ。ハの心と。  
ハの心と。あ。ハの心と。あ。ハの心と。あ。ハの心と。















































事と姑もかくいひて。さういふうがらぐらと。さういふうは  
我をさういふうは。さういふうは。さういふうは。さういふうは。  
女まの中のじりま。さういふうは。さういふうは。さういふうは。  
ひすう飽て。甜利するやに。邪女く。さういふうは。さういふうは。  
困る池ご。後よ。至同利。さういふうは。さういふうは。さういふうは。  
一入じす。ち強の。邪よ。さういふうは。さういふうは。さういふうは。  
英人く。つゝ。人。さういふうは。さういふうは。さういふうは。  
りをさういふうは。困よ。さういふうは。さういふうは。さういふうは。  
おまた。つ。れ。は。さういふうは。さういふうは。さういふうは。  
まぬの。じり。ま。さ。う。い。ふ。う。は。さ。う。い。ふ。う。は。さ。う。い。ふ。う。は。  
例をさういふうは。さういふうは。さういふうは。さういふうは。

のりれ。さういふうは。困よ。さういふうは。さういふうは。さういふうは。  
おまた。つ。れ。は。さういふうは。さういふうは。さういふうは。  
まぬの。じり。ま。さ。う。い。ふ。う。は。さ。う。い。ふ。う。は。さ。う。い。ふ。う。は。  
例をさういふうは。さういふうは。さういふうは。さういふうは。  
らひをゆめ。さういふうは。さういふうは。さういふうは。さういふうは。







梅子と打わけ候へ。利アある在處を、つとめられしを、  
 はりり。年月と向ふいゆは、いそぎに、いそぎに、  
 利アある。おもしろい。おもしろい。おもしろい。おもしろい。  
 色は、まよひの、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
 かなたの、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
 利アあるの、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
 名と、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
 梅子と、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
 て、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
 あ、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
 り、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。

心のは、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
 一、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
 二、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
 三、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
 四、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
 五、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
 六、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
 七、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
 八、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
 九、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。  
 十、まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。まよひ。















